

京丹波町における 須知高校の在り方

京丹波町における須知高校の在り方懇話会 第3回開催資料

令和5年9月28日（木曜日）



京丹波町 企画情報課

町の宝である「須知高校」を活性化し、持続可能としていくための議論の進め方の整理

京都府の高校の状況と須知高校の現状を理解

済

須知高校の京丹波町での役割（期待）を考える

済

府の高校改革を踏まえ須知高校に期待すること

須知高校の持続可能な改革に町ができること

今回

第3回の内容

**須知高校の京丹波町での役割等
府の高校改革を踏まえ須知高校に期待
すること**

 **関わり方や必要な取組、支援 等**

須知高校の京丹波町での役割等

① 将来の担い手育成としての期待

～将来の町を担う人材の育成に向けて～

○地域探究学習等の充実に向けた協力と支援

- ・外部コミュニケーション＝地域との関わる方法を提案したい
- ・町を支える次の世代が須知高校で育ってほしいそのためには食品科学科も普通科も町の課題について考えることが必要。
- ・高校の卒業後、あるいは大学の卒業後に帰ってきてもらうことが大切。

○中高連携事業等の推進による交流づくり

- ・小中高の縦の繋がりがあまりないので、普段から子ども同士の繋がりがあること、高校や部活に勧誘もしやすいと思う。
- ・文化祭への招待なども効果があるのではないかな。
- ・中高一貫した探究的な学びにより問題意識を持つことが必要

○クラブ活動の充実(フリースポーツ等の導入)

- ・強化指定として野球部とホッケー部に力をいれている。生徒数が少ないと成立しない種目もあるため、なかなか難しい。
- ・公式試合に出るといいう目的にはならないかもしれないが、これからは取り入れることも必要かもしれない。
- ・目的や先を見て目標を持ち、高校を選ぶが、その基準には部活動も選択肢として含まれる。

○地域探究学習も実施する公設塾の設置

- ・隠岐島前高校では探求的な学習もされているし、近くには公設の塾も設置されており、ここでも探究的な学習もされている。

須知高校の京丹波町での役割等

② 町の魅力・強みの強化（食）

～食のまちの推進に向けて～

○企業との連携による地場産品等を活用した商品開発や新たな価値の創造

・食品加工に係る技術交流を提案したい。具体的には、食品科学科による商品開発等も考えられます。

○新規就農や食関連事業等での起業等を支えるために必要な支援

・隠岐島前高校のある隠岐の島は漁業が基幹産業であるが、安定した収入が得にくい等もあり(事業承継に)将来的な心配があったが、町が投資し、冷凍技術を導入したことで収入が倍増したと聞いている。これにより、次の世代が後を継ぐ切っ掛けになったとのこと。

○京丹波町産の安全で美味しい食材を使用した学食の提供

・寮ができるのなら、学食があったらよい。

須知高校の京丹波町での役割等

③ 町の特色あるスポーツ振興（ホッケー）

～町スポーツによる町の活性化～

○競技人口の増加に向けた取り組みの推進（幼少期での普及活動）

- ・夢のある話として、企業にホッケー部を設立してもらいたい。
- ・小中学生を競技に引き込むための役割が担えるのではないか。
- ・女子については助っ人が必要な状況。

○小中高のホッケー競技を通じた連携による交流づくり

- ・小中学生とのかかわりづくりを進め、須知高校への進学も含め、担える役割は多い。
- ・小中高の縦の繋がりがあまりないので、普段から子ども同士の繋がりがあること、高校や部活に勧誘もしやすいと思う。

○全国募集等に必要な学寮の設置 等

- ・全国募集については、学寮の設置が必要
- ・篠山から女子生徒が3人来ており、いかに女子の部員を確保するかが課題
- ・京丹波町の子ども的人数が少ないから、外部(町外)からどれだけ取り込んでいくのが重要となる。
- ・須知高校に来たいという声があるが、朝・夕の交通手段や寮が無いことから、寮の設置のある他府県の強豪校へと流れているとのこと。

○京都市や近郊都市等を括りとしたジュニアチームの結成に必要な支援

- ・富山県の高校は、お揃いのTシャツをきており、多くの企業の名前が入っている。スポンサーとして企業の名前を前端的に宣伝している。
- ・企業連携しながら、町の活性化とともに、須知高校も活性化していける。
- ・京丹波町内でもスポーツへの支援を検討していきたい。

○町内企業とのマッチング(スポンサー)に必要な支援

- ・京都府を枠組みとした、クラブチームを作っていくことも一つの手法となる。

須知高校の京丹波町での役割等

④ 中高連携による文化継承 等

～町の歴史文化の伝承～

○伝統芸能の中高交流と授業での取り組みへの支援

・和知太鼓保存会にお世話になり、取り組んできた。最近はコロナ禍で、発表できる機会がなかったが、今年度は授業の中で8月から実施することとしている。また、竹細工についても美術として取り組んだりもしている。

府の高校改革を踏まえ須知高校に期待すること

① 須知高校の特色化、差別化のポイント

○地域と連携した教育の推進(地域振興会等との連携)

- ・6次産業化の取り組みもしており、地域と地元企業が連携し、意識した中で売っていく必要がある。
- ・都会より子育てしやすい環境にある。
- ・50~100人という規模の学校で学べるメリットもあり、働ける企業もあり、住める空き家もあるので、移住という発想でやっていくことが必要ではないか。

○町・企業等と連携したレベルの高いPBLの実施

- ・竹の子では収穫日その日にご飯にするなど、鮮度を優先した価値づくりをしている。新卒の採用後は、現場での研修をしているため、須知高校の学生も連携し、一緒にできればと思う。
- ・若い感性で企業の改善活動に入り込んでもらおうと、自由な発想により、会社が活性化するのではないか。
- ・京丹波町に企業があることを知ってほしい。

○産学官の連携による事業の推進

- ・食品科学科による商品開発等も考えられますが、更に高いレベルとして無添加技術や厳選素材の利用、トレーサビリティ、価値づくりを支える品質の基準、行程管理方法だったり、外部コミュニケーション＝地域との関わる方法を提案したい。

府の高校改革を踏まえ須知高校に期待すること

② 企業や行政との連携による事業の高(広)次化

○食品加工に係る技術交流

- ・食品加工に係る技術交流を提案したい。具体的には、食品科学科による商品開発等も考えられます。

○商品の価値づくりに関わる品質基準や工程管理等の学び

- ・商品開発等よりも更に高いレベルとして無添加技術や厳選素材の利用、トレーサビリティ、価値づくりを支える品質の基準、行程管理方法だったり、外部コミュニケーション＝地域との関わる方法を提案したい。

○社員等との交流による学び

- ・新卒の採用後は、現場での研修をしているため、須知高校の学生も連携し、一緒にできればと思う。
- ・会社に一定数はいるはずの須知高校のOB等と須知高校生徒との意見交換

○高校生の視点による企業の改善活動への参画

- ・インターンシップとして「仕事を学ぶ」に加え、若い感性で企業の改善活動に入り込んでもらおうと、自由な発想により、会社が活性化するのではないか。
- ・子どもに企業についての意見を出してもらおう機会も必要と思う。

○企業による出前講座の実施

- ・地元企業に学校の出前授業などで来ていただくなど地域に根ざした中でやっていただきたい。

府の高校改革を踏まえ須知高校に期待すること

③ 高大連携を踏まえた須知高校の在り方 (府立大学附属高校化を含む)

○京都府立大学の食文化研究分野等を担う附属高校化

・そもそも3大農牧教育の発祥の地であり、他は国立で、須知高校は府立ですが、このことも府立大学の附属化という話に結び付いていくのではないだろうか。

○林業大学校との連携

・せっかく林業大学校があるのだから、これもいれていくべき。

府の高校改革を踏まえ須知高校に期待すること

④ 特色化を図るうえで必要な条件整備

○全国募集等に必要な寮等の整備

- ・須知高校に来たいという声があるが、朝・夕の交通手段や寮が無いことから、寮の設置のある他府県の強豪校へと流れているとのこと。
- ・海士町に隠岐島前高校という学校があるが、少子化等により廃校寸前となった。これに対して町が全力で立て直しをしたのだが、寮（交流センター）も設置している。

○須知高校の特色ある学びを支える公設塾の整備

- ・隠岐島前高校では町が投資し、魚の冷凍技術を導入したことで収入が倍増したと聞いている。これにより、次の世代が後を継ぐ切っ掛けになったとのこと。高校において探求的な学習もされているし、近くには公設の塾も設置されており、ここでも探求的な学習もされている。